

# [ 主な仕様 ]

## ■「バイオノートC1」PCG-C1V SX/K・C1V S/BWの主な仕様

モデル	PCG-C1V SX/K	PCG-C1V S/BW
OS	Microsoft Windows 2000 Professional	Microsoft Windows Millennium Edition
プロセッサ	Transmeta Crusoe プロセッサ	
	TM5600 667MHz	TM5600 600MHz
キャッシュメモリー (1次 / 2次)	128KB/512KB(CPUに内蔵)	
プロセッサシステムバス	100MHz(CPUクロック600MHz動作時)	
メインメモリー 標準 / 最大 拡張メモリースロット (空き)	SDRAM 128MB(オンボード)/最大192MB ※うち16MBはシステムで使用。 専用メモリースロット×1(1)	
グラフィックアクセラレーター	ATI RAGE Mobility-M1(3Dアクセラレーション対応)	
ビデオメモリー	8MB(ビデオチップに内蔵)	
液晶表示装置	8.9型、ウルトラワイドXGA(1024×480ドット)対応 TFTカラー液晶	
表示モード	1024×480(最大約1677万色*1)/640×480(最大約1677万色*1)、 800×600*2(最大約1677万色*1)、1024×768*2(最大約1677万色*1)	
外部ディスプレイ出力	1600×1200/1280×1024/1024×768/800×600(約1677万色) 外部ディスプレイ:1280×1024 (最大約1677万色) —本体LCD表示:1024×480 (最大約1677万色*1) 外部ディスプレイ:1024×768 (最大約1677万色) —本体LCD表示:1024×480 (最大約1677万色*1)	
デュアルディスプレイ表示時 (例)	(非対応)	
フロッピーディスクドライブ	別売PCGA-UFD5、USB経由外付け、3.5型(1.44MB/720KB)	
ハードディスク	約30GB(Ultra ATA) (C:約15GB/D:約15GB)*3*4	約15GB(Ultra ATA) (C:約10GB/D:約5GB)*3
ドライブ	別売:CD-ROMドライブ(PCGA-CD51/A) CD-RWDライブ(PCGA-CDRW52) DVD-ROMドライブ(PCGA-DVD51/A) PCカード接続	付属:CD-RWDライブ (PCGA-CDRW52)、PCカード接続
内蔵ビデオカメラ	プログレッシブ方式1/6型CCD35万画素(f=2.8mm F2.8) ●AV出力(NTSC/PAL対応、ステレオライン出力)*5 ●USB×1 ●外部ディスプレイ出力(別売ディスプレイアダプターPCGA-DA1S専用端子)×1 ●i.LINK(IEEE1394)端子S400(4ピン)×1 ●モデム用モジュラージャック×1 ●マイク/ライン入力(モノラル/ステレオ兼用ミニジャック)×1 ●ステレオヘッドホン出力(MEGA BASS対応)×1 ●マジックゲート対応メモリースティックスロット×1	
外部接続端子		
PCカードスロット	Type II×1、CardBus対応	
ワイヤレス通信機能	本体にBluetooth内蔵*6 (最大通信速度723kbps、 距離見通し約100~10m)*7 (Bluetooth1.0B準拠)	—
オーディオ機能	ウィンドウズサウンドシステム互換、内蔵ステレオスピーカー、 内蔵マイク、XG対応ハードウェアMIDI音源、 MEGA BASS(低音ブースト)機能(ヘッドホン出力のみ)	
内蔵FAX / モデム	最大56kbps*8(V.90/K56flex自動対応)/最大14.4kbps(FAX時)	
キーボード / ポインティングデバイス	約17mmピッチ/キーストローク約2mm/86キー/ スクロール機能対応スティック式ポインティングデバイス*9、ジョグダイヤル	
主な付属品	ACアダプター(PCGA-AC16V2同等品)、 バッテリーパック(S)(PCGA-BP51A同等品)*10、 テレホンコード(モジュラーケーブル)、 AV接続ケーブル (ピンプラグ:映像/ステレオ⇄AVミニプラグ:特殊ステレオミニプラグ)、 リカバリーCD	

— Microsoft Office XP Personal  
プレインストールパッケージ

ACアダプターまたはリチウムイオンバッテリー

36W

S区分0.0010

電源  
消費電力  
消エネ法に基づく  
エネルギー消費効率\*11

バッテリー駆動時間\*12

バッテリーパック(S): 約2.5～5.5時間 /  
バッテリーパック(L): 約5.5～10.5時間 /  
バッテリーパック(LLL): 約9～18.5時間

バッテリーパック(S): 約3～5.5時間 /  
バッテリーパック(L): 約6～11時間 /  
バッテリーパック(LLL): 約10～19時間

バッテリー充電時間  
(オン/オフ時とも)

バッテリーパック(S): 約1.5時間(約85%)、約2.5時間(約100%) /  
バッテリーパック(L): 約3.5時間(約85%)、約6時間(約100%) /  
バッテリーパック(LLL): 約6時間(約85%)、約9時間(約100%)

温湿度条件

動作時 5～35°C(温度勾配10°C/時以下)20%～80%  
(ただし結露しないこと、および35°Cにおける湿度は65%以下)

本体外形寸法  
(最大突起部含まず)

約 幅248mm × 高さ27mm(手前最薄部。後部は29mm) × 奥行き152mm

質量

約995g(バッテリーパック(S)搭載時)

約980g(バッテリーパック(S)搭載時)

ウェブ検索

スーパーポイントが貯まる銀行

楽天市場| インフォシーク| サービス一覧

オンラインRPG ラグナロクオンライン

全50職種以上から選べます



## SONY C1VS/BWが来た！

2003/05/23 更新

[『ひえたろう』ホームへ](#)[エレクトリックおばあちゃんへ](#)

当たり前のことではありますが、ここに書かれていることに関して、私は何ら正確性・安全性その他の保証を致しません。

(一応断っておきますと、私はWindowsXPをインストールするのはこれが初めてです。またLinuxに関してはほぼ「何も知らない」状態です)

この資料、あるいはリンク先を見て行う全てのことに関して、自己責任をお願いします。

## SONY C1VS/BWで、WindowsXPとLinuxのデュアルブート環境を作ろう

SONY C1VS/BW(WindowsMeプリインストールモデル)でWindowsXP & Vine Linux2.6r1のデュアルブート環境を作ったときのメモです。

またやり直すハメに陥った際に手順を自分で確認することを主たる目的にしています。

- ・メモリ: 192MB
- ・HDD: 15GB
- ・FDD: なし
- ・CD-ROMドライブ: 純正(ブート可)
- ・Windowsパーティション: FAT32(NTFSではない。WinMeからのアップデートだし)

[WindowsMe → WindowsXPへのアップグレード](#)

[Linux用に、D:ドライブ\(3GB\)を領域開放](#)

[Linuxとのデュアルブートのために、WindowsXPにブートローダ\(System Commander7.05\(US版\)をインストール](#)

[Linuxのインストール](#)

[X-Windowの設定](#)

[Windowsパーティションをマウントする\(Linux\)](#)

[Linuxパーティションをマウントする\(Windows\)](#)

### WindowsMe → WindowsXPへのアップグレード

1. まずリカバリCDにてWindowsMeをリカバリする。このとき、パーティションサイズが変更される。

デフォルトの設定だとHDDを2つのパーティションに分け、

C: 10GB

D: 5GB

と割り振られることになっている。これを

C:12GB

D: 3GB

としたい(Dドライブは後で領域を開放し、Linuxをインストールする)

パーティション分割の割合を変えるには、リカバリCDが起動して出てくるメニュー

- 1.フォーマットしてリカバリ...
- 2.パーティションサイズの変更...
- 3.出荷時状態へリカバリ...
- 4.システムリカバリCD-ROMを終了する...

で、2.を選択。次に出てくるメニュー

パーティションサイズの変更

- 1.Cドライブを4GBとし、残りをDドライブにする
- 2.Cドライブを6GBとし、残りをDドライブにする
- 3.Cドライブを8GBとし、残りをDドライブにする
- 4.Cドライブを10GBとし、残りをDドライブにする(出荷時設定)
- 5.Cドライブを12GBとし、残りをDドライブにする
- 6.Cドライブを14GBとし、残りをDドライブにする
- 7.ハードディスクのすべての領域をDドライブにする

にて、5を選ぶ。

2. WinXPへのアップグレードの前にアンインストールするソフト  
【PowerPanel】……タスクトレイのバッテリーアイコンを閉じてから  
【VAIOオンラインカスタマー登録】  
【Sony Notebook Setup】  
【Adobe Acrobat4.0】  
【QuickTime】  
【OpenMG】  
【OpenMG Jukebox】  
【OpenMG Jukebox Plug-in (MG Memory Stick Slot)】  
【Music Visualizer for OpenMG Jukebox】  
【DVgate】……アップグレードキットのマニュアルには載っていないが、これも外せと怒られる。
3. 「サブリメントCD-ROM for Windows XP 1/3」を実行。
4. BIOSアップデート  
当然一度しかやる必要がないので、事実上不要。
5. WindowsXPのインストール。これだけで1.5～2時間ほどかかる。
6. XPを入れてからアップデートするドライバ・ユーティリティ  
【Audio Driver (YAMAHA YMF754)】  
「サウンド・ビデオ。およびゲームコントローラ」の「YAMAHA native DS1 WDM Driver」を更新。在処は  
C:\Drivers\Audio\YDSXSDK.inf  
【Modem Conexant RH56LD/RMH56】  
「HCF 56K Modem」を更新。在処はC:\Drivers\Modem。「Conexant HCF PCI Modem」を選択。  
【MOTION EYE Camera Driver】  
「その他のデバイス」→「マルチメディアコントローラ」を更新。在処はC:\Drivers\Capture。エラーが出てても次回起動より使えるようになる。  
【Stick-type Pointing Device Driver】  
「PS/2互換マウス」を更新。在処はC:\Drivers\Stick。Windowsテストに合格してない云々と言われるが、「続行」を選択。  
【Video Driver (ATI RAGE Mobility-M1)】  
C:\Drivers\Video\Setup.exeを実行。

C:\XPUpgradeにも、いくつかソフトがある。

## 7. 「サブリメントCD-ROM for Windows XP 2/3」「同 3/3」を実行

## Linux用に、D:ドライブ(3GB)を領域開放

- (Win98などの起動ディスクでできるがFDDがないので)別のマシンで作っておいたブートCD (B's Recorder & Win98の起動ディスクで作成)のFDISKにて領域開放。  
(これから使うSystem CommanderにもFDISK機能はあるはずだが、あまり信用してない)

## Linuxとのデュアルブートのために、WindowsXPにブートローダ(System Commander7.05 (US版)をインストール

(あまり意味がないので他の人にはオススメしません。違うやり方を採用すべきです)

- ブートローダがいろいろある中、[Sysytem Commander](#)にした理由はメニュー画面のきれいさだけ。(^^;;

ここで注意すべき(?)はSysytem Commanderのバージョン。

7.05(英語版)にした理由は、いくつかある。できればそれ以前のバージョンは使いたくないな。

まず日本版のシステムコマンダー7は、どうやら[ATIのビデオチップに対応していない](#)。

Q. ATI社製のビデオチップを使用したVideoカードではテキストモードでしか表示する事ができない。

A. システムコマンダー 7はVESA対応のVideoカードでしたらば問題無くOS選択メニューをグラフィックモードで表示する事が出来ますが、**ATI社製のビデオチップを使用したVideoカードではテキストモードでしか表示する事が出来ません。**

ATI社製のビデオチップはVESAに対応しておりますが、ビデオチップがシステムコマンダー7からの読み込み要求を禁止している為に起ります。

この様な場合、システムコマンダー 7インストール後PCを再起動すると御使用のVideoカードがVESAに対応していない旨のメッセージが出て来ますが、テキストモードでシステムコマンダー 7が動作する為、全く問題無く御使用頂く事が可能です。

尚、この問題については現在ATI社と協議中ですが、次期バージョンにて対応予定です。

悲しいことに、このVAIO C1VS/BWにはATIのチップが使われている。

ここに書かれているとおりテキストモードでの起動はできるようだが、見た目で選びたい私はそれだったら別のブートローダを使う。(^^;

7.02(英語版)以降はATIのチップにも対応したようだが、どうやら日本版は対応バージョンはないみたい(日本版発売元のサイトにはアップデートモジュールは見あたらない→代理店が[プロトン](#)から[ライフポート](#)に変わっている。しかしどちらにも見あたらない)

というわけで、日本版は却下。

じゃあ7.02以降の英語版でいいのかというと……。きっとちゃんと使える人には大丈夫だと思うんだが、私はちょっと難しそう。

一般的に、LILO(Linuxに標準でついてくるブートローダ)以外のブートローダを使っている場合、LILOをマスターブート領域にインストールしてはいけないことになっている。LILOがその(既にMBRにある)ブートローダを上書きしてしまうから。

というわけで、他のブートローダを使っているときはLILOはMBRではなくルートパーティションの先頭にインストールせねばならない。

ところがあ。

そうすると、System CommanderがLinuxのインストールを認識してくれないのだ。

論理ドライブ(物理的に違うドライブではなく、パーティションで切った区画)にLinuxをインストールすると、System Commanderに自動認識されないのだそうだ(他のOSや、Linuxでも物理

ドライブにインストールした場合は自動認識され、勝手にブートメニューに加えられる)。

そうなった場合、[メーカーサイト](#)によると以下の方法を試せばLinuxが認識されるようだが、これをやってもできないことも多いようだ。

From the OS Selection menu, press (Alt-S) for the Settings options.  
 Select the Order Add and Remove menu.  
 Press Alt-A to Add.  
 Select the Partition option.  
 Highlight the Linux Native or UNIX-83 partition.  
 Press Alt-T to toggle the bootable status of the selected partition to Yes.  
  
 Return to the OS Selection menu, the selected partition will now appear.

ああそんなにめんどくさいなら素直に違うのを使おうと思っていたら、こんな記述が。

If you installed LILO using the MBR method, when you complete the Linux installation, System Commander will NOT appear upon reboot. This is not a major problem. From the LILO boot menu, choose to boot into the operating system where System Commander was installed. Upon booting into this OS, System Commander will automatically re-enable our OS Selection menu and capture LILO into a file named C:\\$MBR\_LILO.DAT.

Note: this function is only available with System Commander 7.04 and above. This will also work if System Commander (v7) is installed into a FAT or FAT32 partition.

つまり、7.04以降はLILOをMBRにインストールしても大丈夫になったらしい。こりゃラクだぞきっと。(^^)

(Linuxのインストールが完了してリブートしたらSystem Commanderが立ち上がらなくなってるけど、まあ気にしなさんな。(Linuxインストールの途中で)LILOを設定するときに、デフォルト起動OSをSystem CommanderがインストールされているOS(ここではWinXP)に指定する。するとそのOSの起動時にSystem CommanderがLILOを取り込んで、ブートメニューにLinuxを加えてくれる……とかいう感じだろうか)。

**System Commander使うなら断然7.04以降！** ということで、軟弱な私は英語版の7.05を入手しインストールしてみた。

#### 手順

1. WindowsXP上でSystem Commanderをインストール。
2. 再起動後、Linuxをインストール(その際、LILOの設定ではデフォルト起動OSをWinにしておく。  
 ※System Commanderのマニュアルでは「OS Wizard」を使ってパーティション切りとかやってインストールしろと書いてあるが、この通りやると必ず失敗した。(^^; 「OS Wizard」を使わずインストールしたらうまくいった。
3. LILOからWinを選び、XPを起動させる。  
 ところが起動画面の途中でHardware errorが発生して起動しない。@\_@  
 かなり焦ったが、再起動したらSystem Commanderが立ち上がり(メニューにはまだLinuxはない)、そこからWinが起動できた。一安心。  
 (しかし私の環境では今でもLILOからのWin起動はできない。)
4. XPが立ち上がる。確認してみると、確かにC:\\$MBR\_LILO.DATが存在する。よし。
5. 再起動。System Commanderが立ち上がり、ちゃんとLinuxのペンギンがメニューに加えられている。クリックするとLILOが起動した。
6. Linuxを選ぶ。Linux起動。素晴らしい。

※これは少し後の話だけれど……。LILOのデフォルトOSがWinだと、System CommanderでLinuxを選んでからLILOでもLinuxを選ぶという二度手間なので、一度、lilo.confを編集してみた。……するとWinが起動しなくなり、WinMeから入れ直すハメになった。とほほ。



## Linuxのインストール

- VAIO純正CD-ROMドライブを使って[Vine Linux 2.6r1](#)のブートCDにてインストール。  
boot: linux ide2=0x180,0x386
- で起動。(これを入力するときはキーボードは101配列で認識されているので、「=」の文字は日本語キーボードの「=」の右隣、「へ」と書かれたキーをshiftなしで叩き出す) いくつかのサイトでは最後に「text」の文字を入れてテキストモードでインストールしなければいけないと書かれていたが、少なくとも私の環境ではグラフィカルモードで動いた。



- キーボード、マウス(キーボードの中に埋もれてるグリグリやるやつ)も問題なく認識されている。
- swap :300MB ←メモリの1倍~2倍が目安という。  
/boot :30MB ←最低20MBは必要だとインストーラに叱られた。  
/ :残り  
あまり根拠はないけれど。
  - [インストールマニュアル](#)には

「その他、/, /usr, /var, /homeなどとパーティションを分ける場合でも、/homeを「DISKいっぱいまで」にしておけば、ここで半端な領域の調整ができるようになります。ここがよくわからない場合、/, /boot, /homeとスワップのパーティションを作成すると良いでしょう。」

と書かれている。うむ。確かにさっぱりわからない。(^;)

結局 /usrやら /varというパーティションは要るのか要らないのか? 作ったらどういいうメリットがあって、作らなかったらどういいうデメリットがあるのか? (あるいはその逆)

かなり釈然としない気持ちでインストールしたが、何のことはない、インストールしてしまえば/, /usr, /var, /homeなどというパーティションは / 以下に全て作られるわけだ。いくつかのディレクトリを独立したパーティションにするかを聞いていたわけね。

そんなの初心者はわからんぞ。

- マウス(PS/2の3ボタンマウス)、キーボード(日本語106)、ビデオチップ(ATI RAGE Mobility)は自動で認識される。ただしモニタはVaio C1シリーズのものは特殊(1024x480)なため、「Unknown」となる。ここでは640x480を選んでおいた。

## X-Windowの設定

- インストール時に640x480を選んだのでX-Windowの設定はそのまんま使われている。1028x480の画面に640x480の画面を写すから、パチもんハイビジョンのワイドテレビのような、画面が横に引き延ばしされた状態になっている。これはこれで味があるのは確かだが(^;、やはり画面は広く使いたい。
- Vine Linux2.6のX-WindowはXFree86の4.xつてので動いているのだそうで、そのConfigファイルは/etc/X11/XF86Config-4だそうだ。

「同じ機種でうまく動かしている人をWEB上で探して、その人が公開しているXF86Config-4を貰ってくるのがコツ」とアドバイスをもらった。

しかしネットを探すと、何故か同じ型番(PCG-C1VS/BW)を使っている人は多くないようだ。元の持ち主に聞くとこれは「隙間モデル」とのこと。ふうん。とはいえ、同じ大きさのモニタだし、他の型番のものでもあんまり変わらんでしょ。

というわけで、ネットでVAIO C1を使っている人が公開してくれているXF86Config-4をいろいろ拾ってきて、片っ端からリネームして使ってみる。

動かない。

(このとき、いちいち再起動していたのを途中からログアウト→startxでやるようになったが、後で友人に聞くと「もっと手っ取り早いのは、**Ctrl+Alt+Backspace**ですね。……この方法だと、Xが暴走したときも結構 text console に戻ってくれる」とのこと。)

※私が試すと**Ctrl+Alt+Backspace**は**使えなかった**。どうしてだろう？ [\[Ctrl\]+\[Alt\]+\[Backspace\]](#)キーを無効にするなんてことはしてないんだけど。

### コンソールで使うコマンド(DOSとの対応表) from DOS/Windows to Linux HOWTO の [せっかちな人達へ](#) より。

DOS	Linux	注意書き
ATTRIB (+-)attr file	chmod <mode> file	全く違う
BACKUP	tar -Mcvf device dir/	同上
CD dirname¥	cd dirname/	ほとんど同じ文法
COPY file1 file2	cp file1 file2	同上
DEL file	rm file	undelete がないことに注目
DELTREE dirname	rm -R dirname/	同上
DIR	ls	全く同じ文法でもない
DIR file /S	find . -name file	完全に別物
EDIT file	vi file	好きになれないと思いますよ
	jstar file	DOS の edit のようです
EDLIN file	ed file	忘れましょう
FORMAT	fdformat,	
	mount, umount	結構違う文法
HELP command	man command,	同じコンセプト
	info command	
MD dirname	mkdir dirname/	ほとんど同じ文法
MORE < file	less file	はるかに優秀
MOVE file1 file2	mv file1 file2	同上
NUL	/dev/null	同上
PRINT file	lpr file	同上
PRN	/dev/lp0,	
	/dev/lp1	同上
RD dirname	rmdir dirname/	ほとんど同じ文法
REN file1 file2	mv file1 file2	複数ファイルだと違ってくる
RESTORE	tar -Mxpvf device	違う文法
TYPE file	less file	はるかに優秀
WIN	startx	大違い!

どれだけやっても動かないので、これはおそらく私のやり方がマズいんだろうなと思に至る。そこでいくつかのファイルの中身を見て、いろいろ想像しながらやってみる。軟弱者の私は、編集はWindowsマシンにて、ファイルの移動はフラッシュATAカードにておこなった(C1のフロッピードライブは持っていないので)が、大丈夫だった。

### とりえず動いたXF86Config-4の設定(一部。あまり意味は分かってません)

```
Section "Monitor"
Identifier "Monitor0"
# ※1
# HorizSync 30-64
# VertRefresh 50-100
Modeline "1024x480" 65.00 1024 1032 1176 1344 480 488 494 563 -hsync -vsync
Option "DPMS"
EndSection

Section "Device"
# Uncomment the following line to enable external display
# Option "crt_screen"
Identifier "ATI Rage Mobility"
Driver "ati"
VendorName "ATI Rage Mobility"
BoardName "ATI Rage Mobility"

#BusID
EndSection
```

```

Section "Screen"
Identifier "Screen0"
Device "ATI Rage Mobility"
Monitor "Monitor0"
# ※1の「Identifier」と一致しないとイケないのだと思う。
DefaultDepth 16
# ↑24だと結構遅くなってしまうと聞いた。
SubSection "Display"
Depth 1
Modes "1024x480"
EndSubSection
SubSection "Display"
Depth 4
Modes "1024x480"
EndSubSection
SubSection "Display"
Depth 8
Modes "1024x480"
EndSubSection
SubSection "Display"
Depth 15
Modes "1024x480"
EndSubSection
SubSection "Display"
Depth 16
Modes "1024x480"
# virtual screen
Virtual 1024 768
# ↑これを入れると仮想ディスプレイになる。
EndSubSection
# ↑16をデフォルトにしてるわけだから、このSubSection以外要らないのかな？
SubSection "Display"
Depth 24
Modes "1024x480"
# virtual screen
Virtual 1024 768
EndSubSection
EndSection

Section "DRI"
Mode 0666
EndSection

```

以下、それぞれの解像度での見え具合。  
アイコンの形を見ると、わかりやすいね。

**640 × 480**



**1024 × 480**



仮想1024×768



↑しかし仮想画面なので、実際に見えている範囲は、これ。↓



※ここ↑の画面は350×...の大きさに縮小しています。

### おまけ

GNOME起動画面  
640×480



1024×480

とした(もちろんドライブレターは任意。ただしあまり若い記号にすると、CD-ROMやらリムーバブルドライブと重なってややこしくなるかもしれない)。保存してインストール手順を踏むと、こんな感じにマウントしてくれる。



いちいちマウントするのがイヤなのでgo.cmdをスタートアップに登録し、起動時に自動的にマウントするようにした。

---

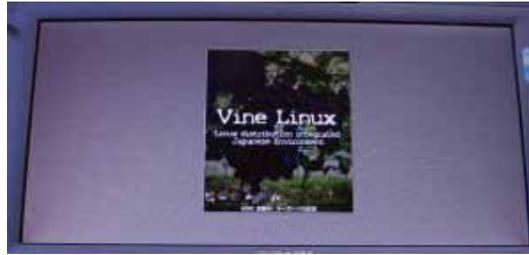
当たり前のことではありますが、ここに書かれていることに関して、私は何ら正確性・安全性その他の保証を致しません。

(一応断っておきますと、私はWindowsXPをインストールするのはこれが初めてです。またLinuxに関してはほぼ「何も知らない」状態です)

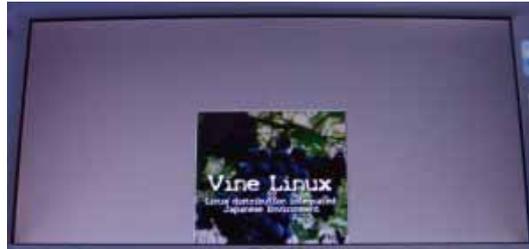
この資料、あるいはリンク先を見て行う全てのことに関して、自己責任でお願いします。

[『ひえたろう』ホームへ](#)

[エレクトリックおばあちゃんへ](#)



仮想1024×768



## Windowsパーティションをマウントする(Linux)

私の場合、WindowsMeからのアップグレードなのでWindowsパーティションはFAT32。

起動時にWindowsパーティションをマウントするには/etc/fstabに以下の行を追加する。

```
/dav/hda1 /mnt/win vfat defaults,conv=a 0 0
```

デバイス名: /dav/hda1 ←WindowsのあるHDD

マウントポイント: /mnt/win ←フォルダ名は任意だが**手動で作っておく必要がある**(Windowsのように、「なければ勝手に作る」ということをしてくれないみたい。マウント時、ここで指定したフォルダが存在しなければマウントされなかった)

ファイルシステム: vfat ←FAT32なので

オプション: defaults ←起動時に自動的に読み込む設定

fat/vfatの専用オプション: conv=a 0 0 ←CRLF(Windowsでのテキスト形式)とNL(UNIXでのテキスト形式)の変換 b (inary) t(ext) a(uto)

## Linuxパーティションをマウントする(Windows)

ext2fsnt(2000/NT/XP)というソフトを使った。

linuxパーティションを、Windows上のドライブとして認識してくれる。

### Filesystems HOWTO

<http://www.linux.or.jp/JF/JFdocs/Filesystems-HOWTO.html>

中の

6. Extended ファイルシステム (ext, ext2, ext3)

<http://www.linux.or.jp/JF/JFdocs/Filesystems-HOWTO-6.html>

の

6.10 Windows NT から ext2 にアクセスする方法 (ext2fsnt)

<http://www.linux.or.jp/JF/JFdocs/Filesystems-HOWTO-6.html#ss6.10>

にリンクがある、↓のページ

<http://prdownloads.sourceforge.net/ext2fsd/>

で、

<http://prdownloads.sourceforge.net/ext2fsd/ext2fsnt.rar>

をダウンロードする。

readme.txtに書かれている通り、インストールの手順は

readme.txtの一部

```

:
installation:
copy ext2.sys to your %systemroot%\system32\drivers directory
ext2.sysを(通常は)c:\windows\system32\drivers\にコピー
merge ext2.reg file
ext2.regをダブルクリックする
reboot to update driver information
Windowsを再起動
edit go.cmd to point to your Linux drive
go.cmdをメモ帳などで開いて編集。ダブルクリックすると起動してしまうので注意。
run go.cmd
go.cmdを保存した後、ダブルクリックで実行。
:

```

となる。

XP初心者なのでわからなかったけれど、.cmdってのはバッチファイルなのね、きっと。

### デフォルト状態のgo.cmd

```

@echo off

rem
rem ext2 device should be registered using ext2.reg file
rem

kloader ext2

rem
rem link linux partition to Win32 namespace
rem you should EDIT line below to point to correct partition.
rem

rem dosdev /a E: %Device%\Harddisk0\Partition2

```

この最後の行を変える(もちろんremも外す)。←「rem」はコメントアウトってことなので

パーティションに割り当てたいドライブレター:E:  
linuxパーティションのある物理ハードディスク:Harddisk0  
割り当てたいlinuxパーティション:Partition2

という規則なんでしょうね。

# /dev/hdaの数え方は1から始まるのに、これは0から始まるってことなのかな。  
# まあどちらにしろHDDは1台しかないので間違いようがないが。

私の場合は現在、ドライブ0内のパーティションは

1:C (Windows)  
2:/boot (Linux)  
3:swap (Linux)  
4:/ (Linux)

となっていて、

/ → Y:ドライブ  
/boot → Z:ドライブ

と割り当てたいので

```

dosdev /a Y: %Device%\Harddisk0\Partition4
dosdev /a Z: %Device%\Harddisk0\Partition2

```